Oracle8 64-Bit Server for AIX-Based Systems

リリース・ノート

リリース 8.0.6

2001 年 1 月

部品番号: J02114-02

原典情報: A83766-01 Oracle8 64-Bit Server Release Notes Release 8.0.6 for AIX-Based Systems

ORACLE®

Oracle と Oracle のロゴは Oracle Corporation の登録商標です。Oracle8 64-bit、Oracle Installer、Parallel Server Option、Pro*C および Pro*COBOL は、Oracle Corporation の商標です。記載されているその他の製品名および社名はその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれ該当する所有者の商標です。

Copyright © 1999, Oracle Corporation
All Right Reserved

目次

使用上の注意	4
はじめに.....	5
マニュアルに記載されている名称について	5
英語オンラインドキュメントの扱いについて.....	5
リリース 8.0.6.0.0 製品セット	6
オペレーティング・システムおよび環境の要件	7
ハードウェア要件.....	8
オペレーティング・システム・ソフトウェア要件.....	8
必要な OS	9
その他のソフトウェア要件	9
Installer の前バージョンとの変更点	10
Default Install と Custom Install について	10
製品選択の階層について	10
Oracle インストール前の設定作業.....	11
インストールについての注意事項.....	12
README.FIRST ファイル	12
De-Install について	12
Installer から Relink を実行した場合	12
製品の制限事項および既知の障害	13
64-bit ファイルおよびディレクトリ	13
64-bit Pro*C カスタマ・アプリケーションの構築.....	13
64-bit OCI カスタマ・アプリケーションの構築	14
新しい ORACLE_HOME	14
LD_LIBRARY_PATH.....	14
ファイル・システム	14
大きい SGA サイズ	14
非常に大きいファイル	14
サポートされていない製品	15

ワードサイズが異なるシステムでのサーバーおよびクライアントの実行.....	15
ORACLE_SID.....	15
Precompiler について.....	16
Migration Utility.....	16
Oracle7 からの移行について.....	16
エクスポートのメッセージについて.....	17
Net8 OpenAPI のサポートについて.....	17
Legato Storage Manager.....	18
Legato Storage Manager を 64-bit システムに手動でインストールする場合.....	18
64-bit システム上の Legato Storage Manager バージョン 5.5 の削除.....	20

使用上の注意

このリリースノートは Oracle8 for AIX-Based Systems リリース 8.0.6.0.0 製品セットを特に日本語環境で使用するにあたっての注意事項について解説しています。

この製品は、IBM AIX および IBM AIX SP の両システムに対応しています。

『Oracle8 for AIX-Based Systems インストレーション・ガイド』とあわせてご利用ください。

また、製品メディア中の rdbms/doc/README.doc ファイルを必ずお読みください。

次の項目に関して説明します。

- はじめに
- リリース 8.0.6.0.0 製品セット
- オペレーティング・システムおよび環境の要件
- Installer の前バージョンとの変更点
- Oracle インストール前の設定作業
- インストレーションについての注意事項
- 製品の制限事項および既知の障害
- Legato Storage Manager

はじめに

マニュアルに記載されている名称について

Oracie8 関連マニュアルは、英語版を翻訳しているため、マニュアル中で参照されている情報には、日本では提供されていないものも含まれます。

- インターネット URL
- マニュアル名
- ソフトウェア名

英語オンラインドキュメントの扱いについて

CD 媒体上の英語のドキュメントと同一のドキュメントが日本語で提供されている場合は、日本語版を参照してください。

リリース 8.0.6.0.0 製品セット

製品	
Oracle Unix Installer	4.0.3.0.0
Oracle On-Line Text Viewer	1.0.1.0.0
SQL*Plus	8.0.6.0.0
Oracle for AIX-Based Systems Documentation	8.0.6.0
Net8	8.0.6.0.0
Net8 Protocol Adapters	8.0.6.0.0
TCP/IP Protocol Adapter	8.0.6.0.0
Oracle Advanced Networking Option	8.0.6.0.0*5)
Security and Single Sign-On	8.0.6.0.0*5)
Client Software	8.0.6.0.0
Net8 External Naming Adapters	8.0.6.0.0
Migration Utility: Oracle7 to Oracle8	8.0.6.0.0
PL/SQL	8.0.6.0.0
Oracle8 Enterprise(RDBMS)	8.0.6.0.0
Oracle Intelligent Agent	8.0.6.0.0
Oracle Data Gatherer	8.0.6.0.0
Oracle Parallel Server Management Components	8.0.6.0.0
Oracle8 JDBC Drivers	8.0.6.0.0
JDBC Thin Driver	8.0.6.0.0
JDBC OCI Driver	8.0.6.0.0
Object Type Translator	8.0.6.0.0
Oracle Cartridges	8.0.6.0.0
Oracle ConText Cartridge	2.4.6.0.0
Oracle8 Visual Information Retrieval(VIR) Cartridge	8.0.6.0.0*1)
Oracle8 Spatial Cartridge	8.0.6.0.0*1)
Oracle8 Image Cartridge	8.0.6.0.0

Oracle8 Time Series Cartridge	8.0.6.0.0*1)
Oracle Options	8.0.6.0.0
Oracle8 Objects Option	8.0.6.0.0
Oracle8 Partitioning Option	8.0.6.0.0
Precompilers	8.0.6.0.0
Pro*C/C++	8.0.6.0.0
Pro*FORTRAN	1.8.28.0.0
Pro*COBOL	1.8.28.0.0
SQL*Module for Ada	8.0.6.0.0*1)
Pro*COBOL	8.0.6.0.0
Oracle Names	8.0.6.0.0*3)
ORACLE NLS Libraries and Utilities	8.0.6.0.0*4)
ORACLE Core Libraries	8.0.6.0.0*4)
Oracle Server Manager	3.0.6.0.0*2)
Legato Storage Manager	5.5.0.0.0*2)*6)
Oracle Trace	4.0.0*4)

備考: コンポーネントは、製品メディアに含まれる製品コンポーネントの一覧を記載したもので、製品ライセンスとは対応していません。

- *1) 日本ではサポートされません。
- *2) Oracle8 Enterprise(RDBMS)と同時にインストールされます。
- *3) Net8 と同時にインストールされます。
- *4) インストール時に選択できるものではありません。
- *5) 対応する Network ソフトが導入されている必要があります。
- *6) この製品は、Oracle Parallel Server を使用した環境ではサポートされていません。

オペレーティング・システムおよび環境の要件

Oracle8 64-bit をインストールする前に、ご使用のシステムが次の表に示すインストール要件を満たしていることを確認してください。

ハードウェア要件

ハードウェア	要件
アーキテクチャ	IBM RS/6000
メモリー	IBM RS/6000
スワップ領域	RAM 容量の 2 倍（ほとんどのシステムについて推奨）
CD-ROM 装置	IBM がサポートする CD-ROM（Oracle では、RockRidge 拡張機能が付いた ISO 9660 形式の CD-ROM 装置を使用）

オペレーティング・システム・ソフトウェア要件

OS ソフトウェア	要件
オペレーティング・システム	AIX 4.3.2 または 4.3.3
オペレーティング・システム・パッチ	AIX 4.3.2 IY03412 IY07018 IY07611 IY01050 AIX 4.3.3 IY05995 IY07276 OPS Clusters IY08850 IY04109 IY04149 IY04767 IY03478 IY10249 IY04838

注意: 64-bit リリース 8.0.6 では、AIX 4.3.1 は使用できません。AIX 4.3.2 以上を使用する必要があります。

必要な OS

次のコマンドで、システム上の OS のバージョンを確認できます。

```
% uname -a
```

この製品では、AIX 4.3.2 以上がサポートされています。

次のコマンドで、実行中の AIX オペレーティング・システムのバージョンを確認できます。

```
% lslpp -l bos.rte
```

その他のソフトウェア要件

製品名	制限事項および要件
Pro*COBOL 8.0.6 および 1.8.28	Micro Focus COBOL 4.1 以上が必要です (32-bit のみ)
Pro*C/C++ 8.0.6	C Set 3.6.4 コンパイラが必要です
Pro*FORTRAN 1.8.28	XL FORTRAN 6.1 以上が必要です (32-bit のみ)
SQL*Module Ada 8.0.6	PowerADA 3.1.3 以上が必要です (32-bit のみ)

すべてのネットワーク製品には、サポートされるネットワークの基本となるソフトウェアおよびオペレーティング・システム・ライブラリが必要です。Net8 製品をインストールする前に、ネットワーク・ソフトウェアをインストールおよび実行してください。

Installer の前バージョンとの変更点

Oracle8 リリース 8.0 の Installer は、以前のバージョンのものと比較してユーザー・インタフェースが変更されています。Oracle8 リリース 8.0 の Installer で変更された箇所を説明します。

Default Install と Custom Install について

日本語のメッセージをインストールしたり、US7ASCII 以外のデータベース・キャラクタ・セットを使用するためには、「Install Type」画面にて「Custom Install」を選択してください。

製品選択の階層について

インストールする製品の選択が階層表示になりました。（製品名の左にあるプラス記号(+)によって示されています。）

例えば Pro* シリーズプリコンパイラの各製品をインストールするには、まず「Precompiler」をダブルクリック（キャラクタ・モードでは、「リターン」）し、そのうえで「Pro*C」など個々の製品を選択してください。

「Precompiler」だけを選択しても、Pro*C など各製品はインストールされません。

Oracle インストール前の設定作業

1. 現在の Oracle Installer は日本語環境では使用できません。日本語環境にインストールする場合、あらかじめ環境変数 NLS_LANG を設定解除してください。

【実行例 (C シェルの場合)】

```
% echo $NLS_LANG
Japanese_Japan.JA16SJIS
% unsetenv NLS_LANG
```

【実行例 (B シェルおよび K シェルの場合)】

```
$ echo "$NLS_LANG"
Japanese_Japan.JA16SJIS
$ NLS_LANG =American_America.US7ASCII; export NLS_LANG
```

2. 環境変数 LANG を設定していると再リンク時にエラーになることがありますので、あらかじめ環境変数 LANG を設定解除してください。

【実行例 (C シェルの場合)】

```
% echo $LANG
japanese
% unsetenv LANG
```

【実行例 (B シェルおよび K シェルの場合)】

```
$ echo "$LANG"
japanese
$ LANG=C; export LANG
```

インストールに関する注意事項

Oracle をインストールする上で、既知の障害および注意事項について説明します。

README.FIRST ファイル

このファイルには、リリース 8.0.6 の最新情報および制限事項が記述されています。Oracle Installer を起動すると、このファイルが表示されますので、注意してお読みください。

De-Install について

全ての製品を De-Install した場合、最後に次のようなエラーが出力されることがあります。

```
Error
Installation of shared oracle library to be used for Pro*C, OCI and XA
clients has failed.
Please run
make -f ins_rdbms.mk client_sharedlib
in
/ora806/app/oracle/product/8.0.6/rdbms/lib
after exiting installer session.
```

「OK」を押すと、「Software Asset Manager」画面に戻りますので、「Exit」して De-Install を終了し、UNIX コマンド「rm -r」を使って Oracle をインストールしたディレクトリを削除してください。

Installer から Relink を実行した場合

次のように、Installer から Relink を実行すると、エラーが出力される場合があります。ただし、この問題に関しては、修正されているプラットフォームもありますので確認の上、使用してください。

1. 「Installation Activity Choice」画面にて、「Perform Administrative Tasks」を選択します。
2. 「Maintenance Mode」画面にて、「Relink Product Executables」を選択します。
3. 「Software Asset Manager」画面にて、「AIX-Based Systems Specific Documentation」製品を選択した場合、エラーが出力されます。

```
Notification
server.806.vrf(0): FILE_NOT_FOUND while verifying
server.806. (No such file or directory.)
```

エラー画面にて「OK」を押すと、「Software Asset Manager」画面に戻りますので、「AIX-Based Systems Specific Documentation」製品を外して Relink してください。

製品の制限事項および既知の障害

Oracle8 64-bit を使用する前に、`$ORACLE_HOME/rdbms/doc` ディレクトリにある `README.doc` ファイルを確認してください。Oracle8 64-bit 配布に含まれている他の製品の `README` ファイルは、各製品の `doc` ディレクトリにあります。

AIX-Based Systems に Oracle8 64-bit をインストールして使用する場合、次の問題点および制限事項があります。

64-bit ファイルおよびディレクトリ

Oracle8 64-bit では、次のディレクトリに 64-bit 実行ファイルおよびライブラリが格納されています。

- `$ORACLE_HOME/lib64`
- `$ORACLE_HOME/rdbms/lib64`

`$ORACLE_HOME` にある次の実行ファイルは 64-bit です。それ以外は 32-bit です。

- `genksms`
- `ogms`
- `ogmsctl`
- `oracle`
- `otccol`
- `otrcref`
- `otrcfmt`
- `otrcrep`
- `proc64`
- `sqlldr`

64-bit Pro*C カスタマ・アプリケーションの構築

今回のリリースでは、64-bit Pro*C カスタマ・アプリケーションの構築をサポートしています。64-bit のプログラムをプリコンパイルするには、`proc` ではなく `proc64` を使用する必要があります。

64-bit クライアント共有ライブラリは次のとおりです。

```
$ORACLE_HOME/lib64/libclntsh.a
```

64-bit デモ Make ファイルは次の位置にあります。

```
$ORACLE_HOME/precomp/demo/proc/demo_proc.mk
```

64-bit クライアント共有ライブラリを生成するには、次のコマンドを実行します。

```
$ORACLE_HOME/bin/genclntsh64
```

64-bit OCI カスタマ・アプリケーションの構築

今回のリリースでは、64-bit Oracle Call Interface (OCI) カスタマ・アプリケーションの構築をサポートしています。詳細は、`$ORACLE_HOME/rdbms/demo/demo_rdbms64.mk` ファイルを参照してください。

新しい ORACLE_HOME

Oracle8 64-bit リリース 8.0.6 は、新しい ORACLE_HOME ディレクトリにインストールしてください。

LD_LIBRARY_PATH

環境変数 LD_LIBRARY_PATH の設定方法は、プラットフォーム固有のドキュメントを参照してください。そのドキュメントにリストされているパスに次のパスを追加してください。

```
$ORACLE_HOME/lib64
```

ファイル・システム

Oracle Server には、ファイル書込みがディスクに対して行われたことを確認する機能が必要です。この確認機能がサポートされていないファイル・システムでは、Oracle ソフトウェアをインストールすることはできますが、Oracle データベースを使用することはできません。

大きい SGA サイズ

今回の 64-bit リリースでは、2.5GB を超えるシステム・グローバル領域 (SGA) がサポートされます。SGA は、システム・メモリーの使用可能容量によってのみ制限されます。

非常に大きいファイル

Oracle8 64-bit には、4GB を超えるファイルのネイティブ・サポートが含まれています。AIX では、大きいファイルがサポートされていますが、ご使用のファイル・システムおよびポリシー・マネージャに、ファイル・サイズ制限がないことを確認する必要があります。

サポートされていない製品

次の製品は、Oracle8 64-bit for AIX-Based Systems リリース 8.0.6 ではサポートされていません。

Oracle8 64-bit for AIX-Based Systems ではサポートされていない製品

Oracle LU6.2 Protocol Adapter 8.0.6

Oracle SPX/IPX Protocol Adapter 8.0.6

Identix Authentication Adapter 8.0.6

SecurID Authentication Adapter 8.0.6

Kerberos Authentication Adapter 8.0.6

Net8/DCE

ワードサイズが異なるシステムでのサーバーおよびクライアントの実行

Oracle は、64-bit のクライアントおよびサーバーをサポートしています。このサポートによって、32-bit リリースでの 2GB アドレス制限はなくなりました。このため、システム・グローバル領域 (SGA) およびプログラム・グローバル領域 (PGA) は、コンピュータ・システムの物理メモリーによって制限されます。

64-bit アドレスによって大容量バッファ・キャッシュが構成できるようになったため、I/O 回数を減らして、パフォーマンスを改善できます。また、共有プールの最大サイズの制限をなくすことによって、より多くのユーザーが Oracle にログインできるようになります。

正常に実行およびリンクできる組合せを次に示します。

- 32-bit アプリケーションと 32-bit Oracle Server
- 32-bit アプリケーションと 64-bit Oracle Server
- 64-bit アプリケーションと 32-bit Oracle Server
- 64-bit アプリケーションと 64-bit Oracle Server

ORACLE_SID

ORACLE_SID の最後の文字に「\$」は使用できません。

Precompiler について

製品の demo プログラムおよびファイルは参考用です。そのままでは動作しないものがあります。

製品のソフトウェア要件の詳細については、『Oracle8 Server for AIX-Based Systems インストール・ガイド』を参照してください。

また、サポート対象となるコンパイラのバージョンに関しては、コンパイラの提供ベンダーが上位互換を保証している場合は、下位バージョンのコンパイラに対して Precompiler がサポートしている範囲において、上位バージョンのコンパイラについてもサポート対象とします。

コンパイラの互換性については、コンパイラの提供ベンダーもしくはご購入元にお問い合わせください。

Migration Utility

- Migration Utility にて移行できる Oracle7 Server のリリースは 7.1.6、7.2.3、7.3.3、7.3.4 です。
- 但し、レプリケーション環境を使用しているデータベース（読み出し専用スナップショットを除く）を移行する場合、必ず Oracle7 リリース 7.3.3 以上（リリース 7.3.4 を推奨）に移行してから、Oracle8 への移行を行ってください。
- データベース・キャラクタ・セットと NLS_LANG 環境変数のキャラクタ・セットが一致していないとデータベースを正常に移行できません。必ず同一のキャラクタ・セットを設定していることを確認してから Migration Utility を起動してください。
- Migration Utility を起動するには、Oracle Installer からとコマンドラインからの 2 通りの方法がありますが、US7ASCII 以外のキャラクタ・セットのデータベースに対しては、Oracle Installer から起動すると正常動作しません。Migration Utility はコマンドラインから起動してください。

Oracle7 からの移行について

リリース 7.0 のデータベースから Oracle8 へ移行する場合は、Migration Utility は使用できません。

エクスポートのメッセージについて

以下の日本語メッセージの表示に不具合があります。

「"xxx"」には、文字列が挿入されます

エラー番号	誤	正
EXP-00214	表領域"xxx"をエクスポートしています	表"xxx"をエクスポートしています

Net8 OpenAPI のサポートについて

Net8 OpenAPI はサポート対象外です。

Legato Storage Manager

レガートシステムズ社の Networker Server Software および Networker Client Software がインストールされている上に、Legato Storage Manager をインストールすることはできません。これらは、共存できません。

Legato Storage Manager を 64-bit システムに手動でインストールする場合

Legato Storage Manager の通常のインストール手順は、Oracle Installer を使用して Oracle8 Enterprise Edition をカスタム・インストールするときに、「Legato Storage Manager」を選択します。そのときに Legato Storage Manager をインストールしない場合は、手動でインストールすることもできます。

注意: Legato Storage Manager を更新する場合は、Legato Storage Manager の一部を削除してください。ただし、/nsr ディレクトリにある既存の Legato Storage Manager ファイルは削除しないでください。更新の詳細は、『Oracle8 for AIX-Based Systems インストール・ガイド』の「Legato Storage Manager の更新」を参照してください。

Legato Storage Manager を手動でインストールする場合は、次の手順に従います。

1. Legato Storage Manager および NetWorker ソフトウェアが、ご使用のシステムにインストールされていないことを確認します。Legato Storage Manager のインストーラ lsminst (手順 3 を参照) が、既存の Legato ソフトウェアを検出します。Legato ソフトウェアが存在していても検出されない場合は、既存の Legato ソフトウェアおよび Legato Storage Manager が正常に機能しない場合があります。

2. CD-ROM マウント・ポイントから、次のディレクトリに移動します。

```
stage_tmp/lsm
```

このディレクトリは、Legato Storage Manager ソフトウェアおよびインストーラ・ファイル lsminst を含む Oracle CD-ROM にあります。

3. root ユーザーで、次の lsminst コマンドを使用して、Legato Storage Manager ソフトウェアをインストールします。

```
# ./lsminst .
```

クライアントおよびサーバー情報で使用するディレクトリを入力するプロンプトが表示された場合は、デフォルトを受け入れるか、別のディレクトリ名を入力します。そのディレクトリに、十分なディスク領域があることを確認してください。

デバイス名を入力するプロンプトが表示された場合は、改行 ([ENTER] キー) を押すか、または適切な巻戻しなしのテープ・デバイス名を入力します。LSM Administrator GUI で正しく構成されたデバイスは、バックアップ用に Legato Storage Manager が使用しま

す。デバイスの構成については、『Legato Storage Manager 管理者ガイド』の第3章を参照してください。

lsminstによって表示されるその他のプロンプトについては、[ENTER]キーを押してデフォルトを受け入れます。

4. 必要に応じて、環境変数 MANPATH および PATH の更新します。MANPATH には、Legato Storage Manager の man ページがインストールされているディレクトリのパス名 /usr/man を含める必要があります。PATH には、Legato Storage Manager のバイナリ・ファイルがインストールされているディレクトリ/bin をデフォルトで含める必要があります。
5. それぞれの ORACLE_HOME で、Legato Storage Manager のバックアップを可能にします。バックアップを可能にする手順は次のとおりです。
 - a. ORACLE_HOME 所有者としてログインします。

- b. 次のコマンドで、Oracle CD-ROM の cdrom_mount_point/stage_tmp/lsm ディレクトリから liblsm.a ファイルを \$ORACLE_HOME/lib64/liblsm.a にコピーします。

```
cp cdrom_mount_point/stage_tmp/lsm/liblsm.a
$ORACLE_HOME/lib64/liblsm.a
```

- c. この ORACLE_HOME を使用するすべての Oracle インスタンスを停止します。
 - d. 次のコマンドで、シンボリック・リンク \$ORACLE_HOME/lib64/libobk.a を削除し、\$ORACLE_HOME/lib64/liblsm.a ファイルへのシンボリック・リンクに置き換えます。

```
cd $ORACLE_HOME/lib64
rm libobk.a
ln -s liblsm.a libobk.a
```

- e. この ORACLE_HOME を使用するすべての Oracle インスタンスを再起動します。

注意: システムに、後で別の ORACLE_HOME をインストールする場合は、その ORACLE_HOME から Legato Storage Manager のバックアップを可能にする必要があります。

64-bit システム上の Legato Storage Manager バージョン 5.5 の削除

次の手順に従って、Legato Storage Manager バージョン 5.5 を削除します。

1. バックアップ可能にしたそれぞれの ORACLE_HOME について、Legato Storage Manager バージョン 5.5 メディア管理 API を削除します。次に手順を示します。

- a. この ORACLE_HOME を使用するすべての Oracle インスタンスを停止します。
- b. 次のコマンドで、\$ORACLE_HOME/lib64/liblsm.a を削除し、\$ORACLE_HOME/lib64/libobk.a から \$ORACLE_HOME/lib64/libdsbtsh8.a へのシンボリック・リンクを作成します。

```
cd $ORACLE_HOME/lib64
rm liblsm.a
rm libobk.a
ln -s libdsbtsh8.a libobk.a
```

- c. この ORACLE_HOME を使用するすべての Oracle インスタンスを再起動します。

2. root ユーザーで、nsr_ize コマンドを使用して、Legato Storage Manager ソフトウェアを削除します。

```
# nsr_ize -r -s
```

クライアント、メディア・インデックス・ファイルおよびリソース構成ファイルを削除せずに、Legato Storage Manager を削除するには、nsr_ize によって表示される各プロンプトで改行 ([ENTER]キー) を押します。

インデックスおよび構成ファイルを含む/nsr ディレクトリを削除する場合は、NetWorker の構成ファイルおよびデータベース・ファイルを削除するかどうかを尋ねるプロンプトで「yes」を入力します。

注意： Oracle Installer を使用して、Legato Storage Manager を削除することはできません。Legato Storage Manager バージョン 5.5 を削除する場合は、前述の手順に従ってください。

注意： インデックスおよび構成情報を含む/nsr ディレクトリを削除すると、Legato Storage Manager のバックアップからのリストアができなくなります。後で Legato Storage Manager を再インストールする場合、またはその他の Legato 製品をインストールする場合は、構成を再構築する必要があります。